

会 議 録					
行田市教育委員会 令和5年第10回 9月定例会					
招集年月日	令和5年9月21日(木)		開会場所	行田市産業文化会館 2A会議室	
開閉の時刻 及び宣言者	開会	9月21日(木)	午後 2時00分	教育長	渡辺 充
	閉会	9月21日(木)	午後 2時41分	教育長	渡辺 充
教育長	渡辺 充	教育長職務代理者	鹿山 高彦	仮議長	
席次番号	出席の教育長 及び委員氏名	摘 要			
1	渡辺 充				
2	鹿山 高彦				
3	飯塚 千十世				
4	大澤 恵子				
5	大竹 洋平				
議 事 参 与 者			書 記		
教育部長	小池 義憲	書記長	長島 浩司		
教育部次長兼図書館長		書記次長	横田 嘉織		
兼視聴覚ライブラリー館長	増田 勉	書記	萩原 宏幸		
教育部次長					
兼教育指導課長	石崎 昌稔				
教育総務課長	長島 浩司				
学校給食センター所長	小林 誠				
生涯学習スポーツ課長	野口 啓司				
文化財保護課長	中島 洋一				
教育文化センター所長					
兼中央公民館長	新井 大				
郷土博物館長	鈴木紀三雄				
教育部副参事	近藤 隆洋				
教育部副参事	大野 三佳				
教育部副参事	岡部 将弘				
教育支援センター所長	田口 範幸				

会議事件名		顛	末
会 議 の 進 行 状 況		<p>市民憲章唱和（省略）</p> <p>教育長 本日の会議日程は議案 2 件及び報告 1 件である。すべて公開としてよろしいか。</p> <p>【全委員承認】</p> <p>教育長 日程に先立ち、8 月定例会の会議録について事務局に報告を求める。</p> <p>書記次長 8 月定例会会議録報告</p> <p>教育長 何か意見等はあるか。</p> <p>【全委員承認】</p>	
	<p>議案第 5 1 号 令和 5 年度行田市教育委員会の事務事業に関する点検評価報告書（令和 4 年度事業対象）について</p>	<p>教育長提案、書記次長議案朗読</p> <p>教育総務課長 この報告書は、「1 はじめに」から「4 総評」までで構成されており、「1 はじめに」として、教育委員会の事務執行に関する点検評価の結果について報告書を作成し、市議会をはじめ市民に対し、公表する旨を記載している。</p> <p>「2 点検評価の対象及び方法」で対象としているのは行田市教育大綱に位置付けている 6 つの柱に沿った教育行政方針である教育行政重点施策に掲げる主要事業である。</p> <p>点検評価の方法については、令和 4 年度に実施した事務事業のうち、新規事業や見直しを図ったもの、あるいは毎年度継続して実施している事業のうち各所管において重要視している</p>	

		<p>27事業に絞り「事務の点検評価シート」を作成し、必要性、有効性、効率性、達成度、方向性の5項目の視点で評価している。</p> <p>また、この点検評価を実施するにあたり、8月23日に、教育に関し学識経験を有する、元公立学校校長の今鉢氏及び大学職員の宮本氏から意見・提言をいただいた。</p> <p>「3 点検評価の結果」は、評価項目の集計を、グラフで表したものと、その説明として、所管別に評価項目の内訳を掲載したものである。</p> <p>4ページからが各事務事業の状況で、各所管が実施した事務事業ごとにまとめたものとなっている。上段に事務事業の概要、下段に決算額や事業の成果、評価、有識者の意見及び課題や今後の方向性を記載している。</p> <p>27事業の説明は省略し、この後、事前にいただいた委員の意見の紹介や質問に回答する形で説明する。</p> <p>(議案第51号関係資料の説明)</p> <p>・「学力向上支援教員の配置」</p> <p>(質問)</p> <p>学力向上支援教員は、たいへん重要な事業だと思う。必要性が「必要性が特にある」、効率性が「低減する余地はない」となっているのに、方向性が「縮小」になっているのはなぜか。</p> <p>若手教員の指導力の向上に繋がり、指導力の底上げに効果的な支援教員だと思うが、「評価」項目の方向性において「縮小」とあるのはなぜか。</p> <p>(回答) 教育指導課</p> <p>学力向上支援教員配置の効果があることは理解しているが、教職員の定年退職の年齢が引き上げられることにより、学力向上支援教員の確保が難しい状況となることが予想されることから、学習支援ソフトの導入など他の学力向上策を今後検討していく必要があるため、事業の「縮小」という表現とした。</p> <p>(質問)</p> <p>有識者の意見にある指導が難しいクラスとはどのようなクラスか。また、児童の指導で、保護者との連携もあるのか。家庭教育もあつての育ち合いの中、学校側だけ改善されてもその指導の持続に繋がるか疑問である。</p> <p>(回答) 教育指導課</p> <p>指導が難しいクラスとは、学力や生活面に課題がある児童生徒が在籍しているクラスであり、個別指導が必要と考えている。</p>
--	--	---

		<p>また、児童生徒の指導に関しては、必要に応じて保護者とも連携を図っている。面談や電話等での連絡を通して情報を共有しながら指導を行っており、そのようなクラスでは担任1人での指導で難しい状況もあり、学力向上支援教員の支援は効果が大いと考えている。</p> <p>(質問)</p> <p>成果指標について、令和3年度を含め説明をお願いしたい。中学4/8とは8項目中の4項目が向上したということか。向上した項目は何か。</p> <p>(回答) 教育指導課</p> <p>成果指数(2)では埼玉県学力・学習状況調査結果で県平均との前年度比が向上した項目数、「学力差が縮まった教科数」を掲げた。</p> <p>令和3年度は中学校1～3年生の数学、3年生の国語において向上が見られた。</p> <p>令和4年度の結果については(1)小0/2、中0/2、(2)小2/6(小4の国語・算数)、中5/8(中1国語・数学、中2国語・数学、中3国語)であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「英語検定取得支援事業」 <p>(質問)</p> <p>成果の説明に「今後も英語検定受験率及び英語検定取得率の向上に努める」とあり、効率性も「低減する余地はない」とあるが、方向性が「完了」、「今後は、事業そのものを継続するか検討する」とは、どういうことなのか。代替りの事業を計画しているのか。</p> <p>(回答) 教育指導課</p> <p>英語検定受験支援事業の推進により、英語検定の受験者数、中学校3年生の英語検定3級取得率は向上したが、学力テストの結果を見ると、全体の学力向上に結びついていない現状がある。そこで、本事業を「完了」とし、代替りの事業として、学習支援ソフトの導入や中学校のALTの増員等を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教員の教育力の向上を図る研修事業の充実」 <p>(質問)</p> <p>成果指標(2)若手教職員の研修等について、令和4年度から、教育支援センター主管研修の一部が教育指導課に移行されたが、成果はどうか。また、教育支援センターと連携し、研修の</p>
--	--	---

		<p>個別化や教員が主体的に研修に参加できる環境づくりに取り組めたとあるが、どのようなことか。次年度も引き続き研修を推進し、若手教員の指導力向上を図っていただきたい。</p> <p>(回答) 教育指導課</p> <p>指導主事の授業観察等から、若い教職員の指導力、授業力の向上が見られるようになった。また、教職員の感想等から、研修によって授業改善が図られ、自信を持って授業に臨むことができる教職員が増えている。さらに、生徒指導研修、ICT活用研修、普通救命講習、応急手当普及員講習、管理職研修や役職・キャリアに応じた研修会等も実施している。今後も、多くの教職員が主体的に参加できる研修環境を整備し、事業を推進する。</p> <p>・「学校ICT活用推進事業」</p> <p>(質問)</p> <p>成果指標(1)全国学力・学習状況調査結果(正答率)で県平均を上回る教科数(2)埼玉県学力・学習状況調査結果で県平均との前年度比が向上した項目数とあるが、「ICT活用の成果」を示す指標を「学習状況調査結果」で見るのは少々無理があるように思う。もちろんICT活用の最終的目的地は学力向上にあるが、ICT活用が上がっても学習状況調査結果(正答率)に反映されない場合もあるだろうし、逆に学習状況調査結果(正答率)が上がっても、それが必ずしもICT活用が上がったからではなく、むしろ6ページの「教員の教育力の向上を図る研修事業の充実」の成果なのではないか。</p> <p>(回答) 教育指導課</p> <p>ICT活用のねらいは、ICTの活用を通して「児童生徒の興味、関心と学習意欲を高め、学力向上を図る」としており、成果指標に「学力向上」が入ることは必要であると捉えている。学力向上の指標に全国学力・学習状況調査の結果や県学力・学習状況調査の伸びを用いているので同様な指標にした。</p> <p>(質問)</p> <p>成果指標(3)ICTを授業やオンライン学習で児童生徒に活用させている教員の割合が前回と同様の数値となっている。年度目標数値により近づけるための手立てはどのように考えているのか。また、タブレット端末の授業での活用がより積極的に図られるよう研修等が計画されているのか。</p> <p>授業でICT活用されている教員の割合が変わらなかった理由はなぜか。</p>
--	--	--

		<p>(回答) 教育指導課</p> <p>指導者用デジタル教科書の導入に限られた教科となっていることが要因の一つであると考えている。授業支援システムの導入を検討するなど、さらなる活用が図られるように進めていく計画である。他自治体が導入している授業支援システムでは、児童生徒の画面が一斉に、あるいは、並べて表示できるなど、本市の課題である使用方法を補う効果が期待できると考えている。研修に関しては、情報教育主任を対象としたオンラインドリル活用研修を夏季休業中に実施した。また、ICT支援員にも同研修に参加してもらい各校の校内研修や支援を推進している。</p> <p>(質問)</p> <p>タブレット端末を宿題で使用したのを見たことがないが、家庭でもタブレット端末を使用しているのか。</p> <p>(回答) 教育指導課</p> <p>学校の実態に応じて実施されている。夏季休業等の長期の休みにオンラインドリルやレポート作成等を宿題にした学校もある。今後、平日も含めて積極的にタブレット端末を活用していくよう、各学校へ働きかけていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「早期療育事業の充実 特別支援教育推進の充実」 <p>(質問)</p> <p>早期療育と特別支援教育の違いは何か。</p> <p>(回答) 教育支援センター</p> <p>特別支援教育とは、「幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」で、特別支援学校や特別支援学級だけでなく全ての学校での推進が求められる。早期療育「ステップ教室」も特別支援教育の一環として年長児及び小学校1年生を対象に個に応じた療育を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「特別支援教育推進事業の充実」 <p>(質問)</p> <p>サポーターを配置し、特別支援学級の児童生徒の支援が確実にできていることは、素晴らしいと思う。今後は、保護者の要望も多岐にわたりそれに対応できる適正な人員確保や配置、人権育成等が課題になってくると思う。次年度以降では研修会等も計画されているのか。</p> <p>(回答) 教育指導課</p>
--	--	---

		<p>各学校の児童生徒の実態を把握し、教育的ニーズに応じながら、さらに適切な配置が行えるように取り組んでいる。令和5年度についても、「きらきらサポーター研修会」として、年度当初と2学期当初の計2回の研修会をしている。今後も、特別支援学級の児童生徒に対する正しい理解と適切な対応ができるよう可能な限り研修会を実施していく。</p> <p>・「ふるさと学習の推進」</p> <p>(質問)</p> <p>ふるさと学習については、幼稚園、保育所の幼児の頃から、かわいらしいキャラクターを交え、PRができればよいのではないかと。幼い(無意識の)うちに、行田を印象づけることができれば良いと思う。保護者も行田への印象が変わると、子どもへの声かけも変わるように感じる。</p> <p>(回答) 教育指導課</p> <p>幼いうちから行田市について印象付け、行田のよさをPRすることは、行田に愛着と誇りを持つ子供たちを育成する上で大変重要なことと捉えている。今後の事業におけるPRの仕方について検討をしていく。</p> <p>・「公立学校の再編成」</p> <p>(質問)</p> <p>令和4年度の目標は、太田西小、太田東小の再編成なので、この件については達成できたと思うが、今後は市長の考えを実現させるためにも方向性が「継続(改善)」より「拡大」のほうがふさわしいのではないかと。</p> <p>(回答) 教育総務課</p> <p>現在、学校再編成計画の見直しを行っているところであり、新たな計画を策定した後、学校再編成に着手する段階になったら、方向性を「拡大」として事業を進めることを考えている。</p> <p>・「スクールソーシャルワーカーの配置・活用」</p> <p>(質問)</p> <p>事業の概要に不登校対策チーム会議とあるが、このメンバーは指導主事を核に2名のスクールソーシャルワーカーと公認心理師や常任相談員、福祉関係者と理解してよいのか。また、会議で話し合われた内容は、教職員に伝えられるのか。</p> <p>(回答) 教育支援センター</p> <p>不登校対策チーム会議のメンバーは質問のとおりである。チーム会議で話し合われた支援策は、スクールソーシャルワーカー</p>
--	--	--

		<p>一が学校訪問するなどして管理職を通して学年主任や担任、生徒指導主任等に情報提供される。また、その後の支援の進捗状況についても、スクールソーシャルワーカーがフォローしている。</p> <p>・「スクールソーシャルワーカーの配置・活用、適応指導教室「ウイズ」の充実」</p> <p>(質問)</p> <p>不登校児童・生徒を双方扱っていると感じるが、アプローチにどのような違いがあるのか。</p> <p>(回答) 教育支援センター</p> <p>スクールソーシャルワーカーは不登校をはじめとする児童生徒の問題行動を改善するため、学校や家庭を訪問するなど環境に働きかけ、教育指導課や適応指導教室、家庭児童相談室と連携して支援策を検討している。適応指導教室「ウイズ」は、学校や家庭からの相談、スクールソーシャルワーカーからの情報提供を受けて不登校児童生徒を実際に受け入れ、個別面接や学習支援、体験活動などを通して学校復帰や社会的自立を支援している。</p> <p>・「いじめ問題対策連絡協議会の充実」</p> <p>(質問)</p> <p>いじめ問題対策連絡協議会は子供たちの健全育成に携わる方からの貴重な意見を聞く機会でもあると思う。新任教員や若手教員の参加もあるのか。</p> <p>(回答) 教育指導課</p> <p>いじめ問題対策連絡協議会は、いじめの防止に向けて関係する機関又は団体が協議を通して連携推進等を図ることが目的の協議会である。行田市校長会代表者、行田市PTA連合会会長、行田市職員、行田警察署職員、民生委員、家庭児童相談員、学識経験者等、いじめ防止等に関係する機関、又は団体の関係者等からなっている。新任教員や若手教員の参加はないが協議内容を多くの教職員とも共有することは必要であるので、今後、周知していく。</p> <p>・「放課後子ども教室事業の推進」</p> <p>(質問)</p> <p>各実施校の指導者の高齢化が課題となっているが、人員確保はどのように行っているのか。放課後の子供たちの居場所を作る意味からも大事な事業だと思う。</p>
--	--	---

		<p>(回答) 生涯学習スポーツ課</p> <p>地域の方々や、学校応援団関係・市民大学関係の方々に依頼をしている。今後も引き続きお願いしていく。</p> <p>・「若年層向け講座の充実」</p> <p>(質問)</p> <p>「若年層をターゲットとした講座を開催したが、受講者は少数」とあるが、どのような講座を開催したのか。</p> <p>(回答) 中央公民館</p> <p>令和4年度は、「スマホでも始められる初めての映像編集講座」、「親子ではじめるダンス講座」、「夏休み伝統文化体験教室(書道・折り紙・茶道)」を実施した。令和5年度は、「就活応援印象メイクセミナー」、「お子様のためのUV対策講座」、「夏休み伝統文化体験教室(硬筆・折り紙・茶道、将棋)」を実施しており、10月以降も「ダンス講座」や「資産形成講座」などを実施する予定である。</p> <p>(質問)</p> <p>令和4年度に新講座(若者が興味を持っていると思われる)が開設された。更に親子で参加できる講座、行田ならではの講座等(昔の遊び紹介、ものづくり、日本を代表するすばらしい作詞家・作曲家によって誕生した行田風物賛歌等、郷土愛に満ちたもの)を取り入れるのも市民参加や利用者が増え、充実できるものとする。</p> <p>(回答) 中央公民館</p> <p>令和5年度も新たな講座として、「就活応援印象メイクセミナー」、「お子様のためのUV対策講座」を実施しており、10月以降も「若年層向け資産形成講座」などの実施を予定している。今後も「親子で参加できる講座」や「行田ならではの講座」の開催に関する意見を参考に、引き続き若年層が参加しやすい講座の充実を図る。</p> <p>・「行田市まちづくり出前講座の充実」</p> <p>(質問)</p> <p>「特定の講座へ依頼が集中しており」とあるが、どのような講座が人気なのか。</p> <p>(回答) 生涯学習スポーツ課</p> <p>事業実績により、「防災に関する講座」が23件、「防犯に関する講座」が19件で、令和4年度の全依頼数70件のうち、42件を占めており、この2講座に依頼が集中している。</p>
--	--	--

		<p>・「子ども読書活動推進計画」に基づく事業の実施 (質問) 外に出て、本に触れることはとても素晴らしいことだと思う。それと同時に、家庭に本があることで、日常から本を「見ている」ように思う。家庭への読書普及はどのように考えているのか。</p> <p>(回答) 図書館 乳幼児に対して行っている「ブックスタート事業」では、絵本を1冊プレゼントし、絵本を読む楽しさを伝え、乳幼児期における家庭での読書活動の支援を行っている。また、保護者と子どもを対象にしている「親子の絵本講座」は、絵本の選び方、与え方を学ぶとともに親子で触れ合いながら絵本を楽しみ、家庭での読書の普及を図っている。</p> <p>・「各種スポーツイベントの実施」 (質問) 令和3年度のスポーツイベントに参加した市民の割合が4.4%とあるが、どのようなスポーツイベントに参加した数値なのか。成果指標(1)(2)(3)参加者は0であるのでそれ以外のスポーツであるかと思う。また、令和4年度についても7.3%のスポーツイベント(3)の駅伝競走大会以外のどのようなスポーツなのか。</p> <p>(回答) 生涯学習スポーツ課 この評価は、第6次行田市総合振興計画の成果指標と同一のもので、市民アンケートにより市全体のスポーツイベント参加率を毎年調査している。このことから、この指標は教育委員会主催のものだけではなく、各種団体等が主催している様々なスポーツイベントが含まれている。</p> <p>以上、関係資料の説明とする。 この後、委員から意見があれば、報告書を修正し、改めて配付させていただき、最終的に市議会あてに提出し、公表する。</p> <p>教育長 何か意見等はあるか。</p> <p>飯塚委員 特別支援教育推進事業の充実の中で、有識者の意見で「児童、</p>
--	--	--

	<p>議案第52号 行田市文化財保存活用地域 計画協議会委員の委嘱につ いて</p>	<p>生徒の支援が確実にできている」とあるが、成果指標100%とは支援員の配置が十分にできているのか、それとも子どもの支援自体が確実にできているのか。</p> <p>成果の説明にある「落ち着いて楽しい学校生活を送ることができた」は、児童、生徒からでた意見なのか、教員の視点での成果なのか。</p> <p>教育指導課長 有識者の意見は、特別支援教育支援員の配置が十分にできていることから評価いただいた。</p> <p>「落ち着いて楽しい学校生活を送ることができた」といった意見は本来なら、児童、生徒からもらうものだが、現実的には難しいので、教員の視点で落ち着いて授業ができているという意見から判断した。</p> <p>飯塚委員 「落ち着いて楽しい学校生活を送ることができた」の表現だと、児童、生徒からそのような意見があったと捉えられるので内容を補足するなど修正が必要ではないか。</p> <p>教育総務課長 いただいた意見をもとに内容を修正して報告する。</p> <p>【全委員承認】</p> <p>教育長提案、書記次長議案朗読</p> <p>文化財保護課長 委員については、行田市文化財保存活用地域計画協議会設置要綱に基づき、17名の委員を委嘱し、行田市文化財保存活用地域計画について意見をもらっている。今回市職員の人事異動及び自治会連合会の異動があったので、新たに委嘱するものである。</p> <p>任期は前任者の残任期間である令和5年9月21日から令和6年7月31日までである。</p>
--	--	--

	<p>報告第3号 教育委員の任命について</p>	<p>教育長 何か意見等はあるか。</p> <p>鹿山委員 この計画の現在の進捗状況はどのようなか。</p> <p>文化財保護課長 現在のところ原案を作成しており、年度末に文化庁へ提出を予定している。</p> <p style="text-align: center;">【全委員承認】</p> <p>教育長提案、書記次長議案朗読</p> <p>教育総務課長 飯塚千十世委員においては、令和元年10月1日に教育委員に就任され、令和5年9月30日をもって任期が満了となる。 ついては、後任として大木華子氏を選任し、その就任について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第2項の規定に基づき、去る8月29日開催の定例行田市議会において提案、可決されたので、ここに報告するものである。 大木華子氏の任期については、令和5年10月1日から令和9年9月30日までの4年間である。</p> <p>鹿山委員 プロフィールはどのようなか。</p> <p>教育総務課長 学校で相談員を務めていたが、9月をもってそれを退職し、10月より教育委員に従事する。</p> <p style="text-align: center;">【全委員承認】</p> <p>教育長 以上で本日の定例会を閉会とする。</p>
--	------------------------------	---

そ の 他 特 に 重 要 と 認 め る 事 項

- 1 次回定例会開催予定日 令和5年10月19日(木) 午後2時00分
行田市教育委員会 2A会議室

以上、顛末を記載して、その発言内容に相違がないことを証するため、ここに署名する。

教 育 長

委 員

委 員